

町立小学校の児童数及び学級数の 将来推計

令和6年7月

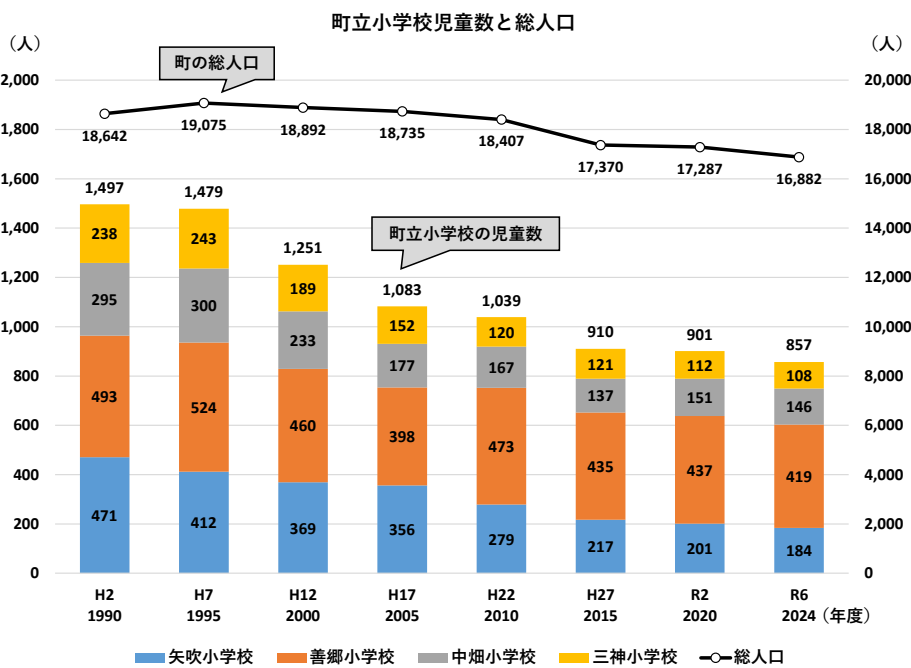
町立小学校の児童数は減少を続けており、現在は善郷小学校以外の3校は いずれの学年においても通常学級は概ね1学年に1学級程度となっています

※特別支援学級を含む

町立小学校の児童数の推移

町立小学校の児童数の推移

- 平成17年度には町立小学校の児童数は1,083人と1,000人を超えていましたが、令和6年度現在は857人となっており、**約20年間で約2割減**となっています
- 善郷小学校は矢吹小学校、中畑小学校、三神小学校の3校と比較して児童数の減少幅が小さく、現在においても3校それぞれの倍以上の児童数となっています
- 町の総人口の直近の状況については、自然動態（出生数、死亡数）による減少は続くものの、社会動態（転入者、転出者）は増加傾向が見られます。



現在の児童数及び学級数

- 令和6年5月1日時点の各小学校の学年別児童数及び学級数は下表のとおりです
- 善郷小学校は1学年2～3学級となっていますが、他の3校は概ねいずれの学年も1学年1学級程度となっています
- 特別支援学級の児童数は町全体で33人、矢吹小学校で10人（2学級）、善郷小学校で18人（3学級）、中畑小学校で5人（2学級）となっています

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	合計
矢吹小学校	35 (2)	18 (1)	36 (2)	33 (1)	28 (1)	24 (1)	174 (8)	184
特別支援学級	1 (1)		2 (1)	2	3	2	10 (2)	
善郷小学校	70 (3)	68 (3)	63 (2)	62 (2)	64 (2)	74 (3)	401 (15)	419
特別支援学級	2 (2)		3	6 (1)	2	5	18 (3)	
中畑小学校	18 (1)	21 (1)	30 (1)	22 (1)	30 (1)	20 (1)	141 (6)	146
特別支援学級	1 (1)		1	2		1 (1)	5 (2)	
三神小学校	20 (1)	14 (1)	14 (1)	21 (1)	19 (1)	20 (1)	108 (6)	108
特別支援学級							0	
計	147	121	149	148	146	146	—	857

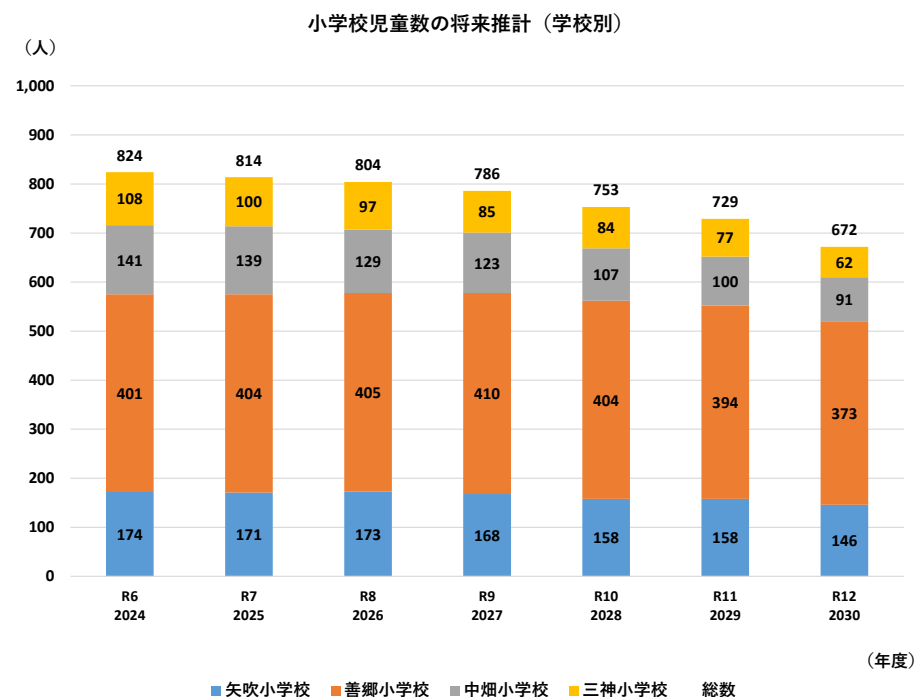
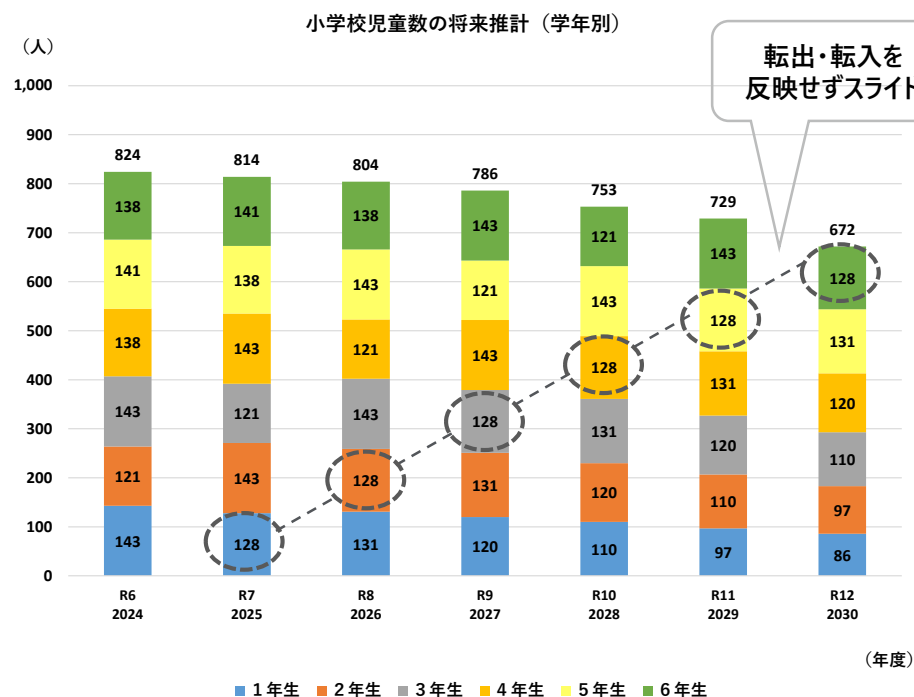
※特別支援学級に関する推計は困難であることから、以降の将来推計は通常学級を対象とします。ただし、適正規模・適正配置に関する具体的な検討を行うにあたっては、特別支援学級に関しても十分に考慮します

町立小学校の児童数を推計した結果、いずれの学年・学校においても減少が進み、6年後には児童数が現在から約2割減となると見込まれます

※通常学級を対象としています

町立小学校全体の児童数の将来推計結果

- 町立小学校全体の児童数は、令和6年度時点では824人ですが、6年後の令和12年度には672人と約2割減となる見込みです
- 学年別の児童数は、令和6年度時点では各学年140人前後ですが、6年後の令和12年度には1年生、2年生がともに100人を下回るなど、**低学年の人数規模の縮小**が大きくなる見込みです
- 学校別の児童数は、令和6年度時点では矢吹小学校174人、善郷小学校401人、中畑小学校141人、三神小学校108人ですが、6年後の令和12年度には矢吹小学校146人、善郷小学校373人、中畑小学校91人、三神小学校62人となる見込みです



推計方法

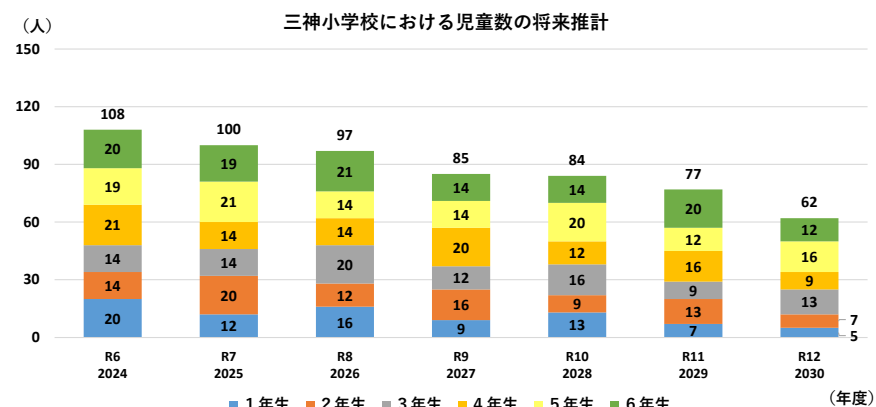
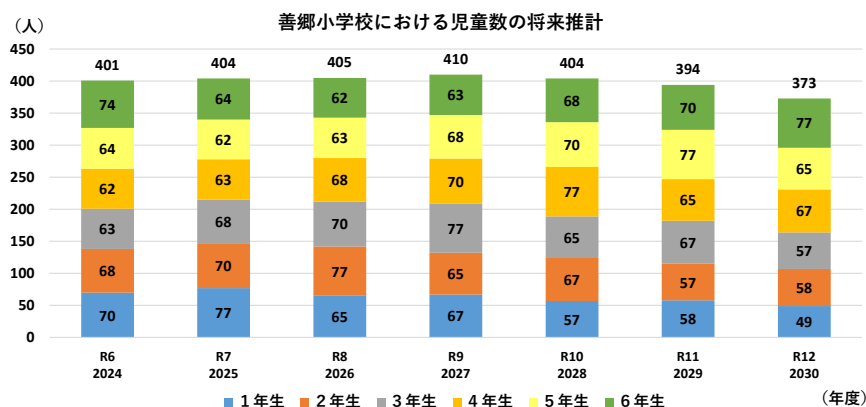
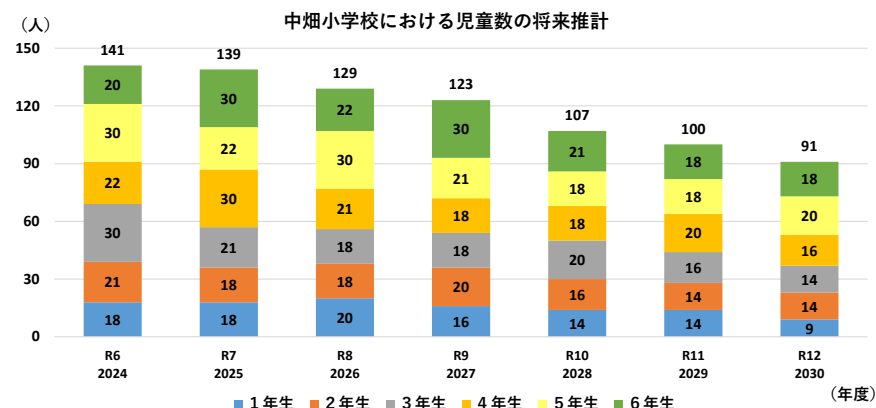
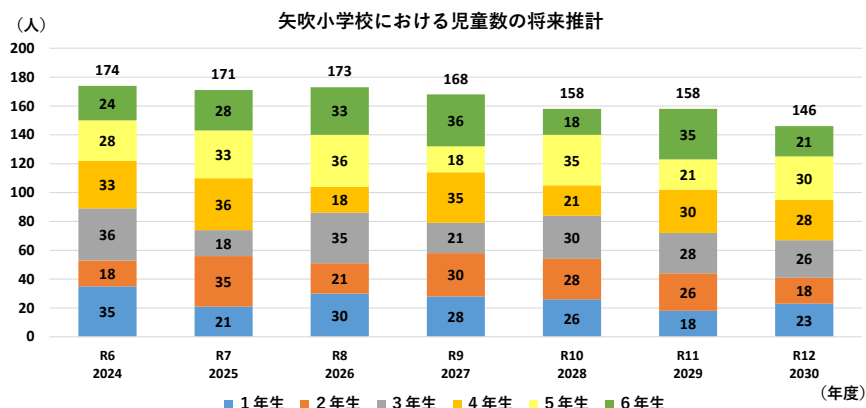
令和6年6月時点の住民基本台帳の人口をもとに、平成30年度生まれ（令和7年度入学：現6歳児）から令和5年度生まれ（令和12年度入学予定：現1歳児）の人数が、住所地の学校に入学し進級（スライド）していくものとして推計

町立小学校4校いずれにおいても着実に児童数の減少が進み、令和12年度以降に三神小学校では複式学級が検討される可能性のある学級規模となる見込みです

※通常学級を対象としています

各町立小学校の児童数・学級数の将来推計結果

- 中畑小学校、三神小学校については6年後の令和12年度には低学年を中心に学級人数の小規模化が深刻化する見込みとなっています
- 特に三神小学校については、6年後の令和12年度に1年生と2年生の合計人数が12人となる見込みです。その翌年の令和13年度には2年生と3年生の合計人数が12人程度となると考えられますが、これは福島県教育委員会が定める学級編制基準（次頁参照）に則れば複式学級の編制も検討される可能性のある学級規模となる見込みです



学級人数が少なくなれば複式学級を編制しなければならなくなりますが、複式学級は子ども・教員ともに負担が大きく、基本的には避けるべきであると考えられます

学級編制の概要

- 同学年の児童又は生徒で編制する一般的な学級を単式学級といいます。これに対し、児童又は生徒数が著しく少ない等特別の事情がある場合に数学年の児童を1学級に編制する学級を複式学級といいます。
- 国の標準法を基に、福島県教育委員会では学級編制の基準を設定しています。福島県は少人数教育を推進しており、単式学級の学級人数は第1・2学年が30人、第3～6学年が30人程度となっています。
- 小学校では、第1学年を含む場合は数学年の児童数の合計が8名より多ければ数学年それぞれが単式学級となりますが、8名以下であれば数学年を統合して複式学級が検討される可能性があります。同様に、第1学年を含まない場合は16名以下であれば複式学級が検討される可能性があります。

学級編制区分		小学校・義務教育学校 (前期課程)	中学校・義務教育学校 (後期課程)
単式学級		1・2年 30人	1年(7年) 30人
		3～6年 30人程度	2・3年(8・9年) 30人程度 ※()内は義務教育学校
複式学級		1年を含む場合 ～8人	～8人
		その他の場合 ～16人	
飛び複式		1を含む場合いずれの学年も4人以下	いずれの学年も4人以下
		その他場合いずれの学年も8人以下	
特別支援学級	基準	8人	8人
	新設	4人	4人
	継続	2人	2人
特別支援学校	普	6人	6人
	重	3人	3人

複式学級の特徴

- 国の学級編制の考え方としては、原則として、単式学級を編制するものとしつつ、児童又は生徒数が著しく少ない等特別の事情がある場合の例外的対応として、複式学級の編制を可能としています
- 複式学級には「学年を超えた縦の交流が生まれる」などのメリットがある一方、「学年が異なるため個々の能力差が大きい」といったデメリットがあり、総じて子どもにとっても教員にとっても負担が大きくなってしまう傾向にあります

メリット	<ul style="list-style-type: none">✓ 学年を超えた縦の交流が生まれる✓ 少人数のため一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい✓ 一人ひとりが果たす役割が大きく、主体性や責任感が養われやすい✓ 保護者や地域社会との連携が図りやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none">✓ 学年が異なるため個々の能力差が大きく、子どもにとっても教員にとっても負担が大きい✓ 一人ひとりに目が行き届きすぎる、また切磋琢磨する機会に乏しくなることにより、自立心や競争心を養うことが難しい✓ 人間関係や交流の幅が狭く、多様な考えや価値観に触れる機会が少ない✓ PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい